

みなさま

平成二十八年度四月，工学部技術部が新たに発足致しました．正直なところ我々技術部のメンバーは戸惑いの中での船出であります．我々技術職員が技術部というひとつの組織となった今，今後本学とどのような形で接し，支援活動を行っていくのか…．今現在，試行錯誤の毎日です．

そんな中，本学の方向性を考えていく要職に就かれている先生に取材してみてもどうか？ 今後の方向性を探るヒントになるのではないかと考えたのが浮かびました．

それで今回は理事・副学長である安浦寛人先生に，まずは技術部発足のご報告と，我々技術職員が組織として新たに本学と歩み始めるための手がかりを掴む目的でお話を伺うことに致しました．

筆者は十年程前に安浦先生の講義を受けた経験があるのですが，その講義の印象は拝聴していてどんどん引き込まれていくような魅力ある講義だった事を覚えており，今回，広報担当という立場をうまく利用して（笑）そのお人柄にも触れてみたいという想いでこの取材を企画致しました．

技術部の話もさることながら，安浦先生のお人柄にも触れるお話を拝聴できましたので，皆様，是非ご一読下さい．

取材日 平成28年 5月6日

<訪問当日>

広報より三名が、椎木講堂の会議室へ招かれお話を伺うことになりました。
まずはこの取材に対し、ご快諾いただきましたことに感謝の意をお伝えし、それぞれ簡単な挨拶を行ったあと、早速インタビューを行いました。

最初に、技術部発足のご報告と組織の簡単な説明をして、なごやかな雰囲気の中、以下のようなお話を伺うことができました。

Ⅳ) まずはウォーミングアップと申しますか、先生の学生時代について少しお話を聴かせて下さい。先生はどんな学生さんで、どんな学生生活をおくられましたか？

Y) 私、高校時代は生物研究部で、山で蝶々などを追っかけてましたね（笑
かなり生態破壊をしたので、罪滅ぼしというか、これはいかんという意識はありましたね（苦笑
で、京都大学に入ったのですが、『情報』なんですね。だけど当時はまだ情報って始まったばかりで、日本で最初に情報工学科とか作ったのは京都大学と大阪大学なんです。それが昭和 45 年なんですよ。

その年、京都は 3 期生 47 年で、情報分野なんて全く世の中にも認知していないし、教える先生たちも、みんな電気とか数理とかで、情報工学科を出た人なんていないわけですよ。ですから、そういった所から来られた先生が一生懸命、手探りでカリキュラムを作られてましたね。

Ⅳ) 真空管とか普通にあった時代でしょうか？

Y) 真空管とかは流石にもう無かったですね。トランジスタから集積回路に変わったぐらい。
1972 年に入ったんで、もう集積回路の時代にはなっていましたけど、規模的にいって、現在のように、ワンチップに何億トランジスタ、というような桁ではなくて、何十、何百程度で、今とは違う世界でしたね。

学生、特に大学院時代は、そういう割と新しい分野、面白そうなことは沢山あったので、色々勉強することと、京都に居たということもあって、割と歴史が好きだったこともあり、奈良とか、神社、仏閣…殆ど主なところは、おそらく百か所以上は回っていますね。
あと、割と山とかを歩くのは好きなので、若い時の面白い経験としては、京都から小浜って日本海側にありますけど、そこまで鯖街道を通って、日本海側の小浜の海岸まで 80 [km] ほどを後輩 3 人と夜中、20 時間かけて歩いたりしましたね。

Ⅴ) え、往復でしょうか？

Y) 帰りはディーゼルカー（鉄道）で…。とてもじゃないけど（笑
研究室では、夕方毎日、鴨川の岸をランニングしたりと…。そんなことをやっていまし

たねえ.

IV) メリハリのある毎日だったのですねえ.

Y) まあ、学問体系自体が、自然科学でも数学でも無いという、ぼやっとしたものだったの
で、これから社会をどう作るんだろうといった何ともしれない不安感とかですね.

講義で3年生のとき一番ショックだったことは、先生たちから、『君たちは将来は薔薇色と
思っているかも知れんけど、君らが卒業する5年後には、日本にはコンピューターメーカ
ーは1社も無くて、全部IBMの傘下に入っているかも知れんのだぞ』と言われて….

そういう時代でした.

その頃、メモリが半導体になる頃で、私たちが学生の頃のメモリは、小さな磁気コアと
言って、輪っかの磁石に針金を通して、ずっと並べて斜めと横に2本電線通して、その交
点で電流を流し、そこを磁化して0と1を憶えるというものでした. 今でいうフラッシュ
メモリみたいなもので、これくらい(両手を広げて)の大きさに4キロビットですよ.



その頃の偉い先生達が、半導体メモリは揮発する(SRAMやDRAMなど)電源を落とすと
消えてしまうんで使い物になるわけないって明言されたんですよ. 10年も経たないうちに
この磁気コアって無くなりましたけど..

そう言うことが沢山あったんですよ. 先生たちが、こういった技術が出たんだけど、これ
は役に立たんよ... って言われた未来予測の全てが外れて、わずか10年で、世の中がそれ
に完全に染まり変わったということを、学生時代から40歳位まで嫌というほど味わいまし
たね..

IX) 技術革新とは、そういった事なんですね.

【ひと昔前の技術と現代の技術】

Y) 最近いろんなところで講演しているんですけど、1970年と今と比べて約50年ですよ
ね. 工学の他の分野なんかと比べても、その50年間に情報分野は桁違いに進歩していて、

例えば伝送速度がギガビットのオーダーになっていますよね.

実に、10 の 10 乗ぐらい上がっているんですよ.

大学の最先端の研究ところで 50[bps] でやっていたのが、今 100[Mbps] 程度を普通の家が引いている. 携帯電話でやっぱり数メガ出るわけですからね、もう 10 桁くらい変わっている. 京コンピュータなんか見ても、計算スピードは 15 桁くらい、学生の頃から 50 年で変わっています. そういう 10 桁, 15 桁, あるいは記憶容量っていうのは、今、ゼッタバイトのビッグデータと言ってますけど、ゼッタバイトは 10 の 21 乗なんですね.

10 の 21 乗って水の分子の直径と太陽から木星までの距離の比が、だいたい 10 の 21 乗. だから、ナノテクと天文学くらいの差が出来ちゃったてことなんですよ.

*** 太陽－木星： 光速でも43分程度かかる距離.**

ところが、最先端の京コンピュータでも数百億円なんですね. それで、一番安い計算機なんて 300 円位で小さな電卓売ってますわな.

そんな世界と比べ、自動車は 1970 年でも時速 100[km/h] は出てて、価格も 300 万円. 飛行機も当時、時速 800 キロで飛んで、早いのも時速 1000[km/h] くらい. 価格は B787 でも大体 800 億円くらい、京コンピュータでも大体同じくらいの値段なんですよ. で、それらは 50 年経った今でもほとんど変わってません. 燃費が 10 倍上がったかもしれないけど、10 倍なんですよ. 100 倍速く動けたり、1000 倍速く動けたら何が出来るか、これは大体予測出来るんですよ. 福岡－東京の間を歩いて往復していた江戸時代で、1 ヶ月半、2 ヶ月掛かったと、それが 2 時間になったら何が出来るかっていうのは想像付くんですよ. でも水の分子と太陽の、木星の距離の差が出た時に何が起こるかって…これ、殆ど想像できないですよ.

そういう事が実は、今の IT 化、IoT とか色々言われていますが、IT のベースの認識として、日本の工学の研究者もそうですし、コンピュータをやっている人達ですらそうなんですけど、あまりにもその認識が無さ過ぎると. ましてや経営者にそれが無かったので日本のエレクトロニクス産業がこんなにガタガタになってしまったと.

かたや、変わってない鉄鋼や自動車はやっぱり勝っているんですよ.

なぜエレクトロニクスが負けたかって、その勢いを読み切れなかった.

ビル・ゲイツとか、ラリー・ページとか、スティーブ・ジョブズとか… ああゆう人達は、もう若い時に直感的に、それを見破って、走り抜けていったんですよ.

そこが日本との違いだろうっていうのを最近色んな所で言ってます.

IY) 10 年ほど前先生の講義を受けました。Soc(システムオンチップ)関連でしたが、例えば今、スマホなどは、まさにニーズそのものが載ってますものね。



Y) そうなんですよ。だからスマホがちょうど、1990 年位のスパコンの性能ですよ。

IX) そうなんですか！今のスマホがですか！？

Y) 30 年も経っていないです。当時の 100 億円くらいで作っていたスパコンが、スマホの中に入っているんです。それが世の中を幸せにしているのかどうかは別ですが…。

私が結婚した時、家で仕事しないって嫁さんに言ったんだけど、ADSL が出て来て、それが光ファイバーになって、何時でも家で仕事やっているから、結局、仕事時間は多分あなた、3 倍位になっているんじゃないのと言われてて（笑

IY)10 年先が、なかなか予測出来ないですね。

Y) そう。予測できない。1 年先が予測できないですよ。

1 年前は、日本で自動運転はまず実用はしないと、実験はあっても実用はしないとされていたんですよ。でも今は、実用ベースの実験が始まっていますよね。

もう、たった 1 年ですよ…。これは政府が珍しく早く動いたこともあるんですけど。でも、グーグルがあんな物を街中でやたらと走らせ始めたことで、ガラッと変わりましたね。たったの 1 年間で…。だから 1 年後なんて予測できないですね。

ビットコインだって 3 年位で、数兆円のお金がそれで動くようになっちゃったんですよ。そんなこと、チョット前の今までの産業では有り得ないですよ。

ただ、みんながそういうのに乗かって生きて行くっていう事が、本当に良いのか…。これは正に工学部の考えるべきことで、工学の電気情報はちょっと情報に足が掛かっている

ますけど、それでも九電がキャンパスでやっているエネルギーセンターの技術って、多分 30 年前の基本技術と殆ど変わってなく、いざ止まったらやっぱりオイルを焚いて自家発電回してって、30 年前も 50 年前も同じですよ。

IY) そうですね。我々技術職員も時代の変化に柔軟に対応出来るように、環境も体制も整えていかないといけないですよ。

【現代の技術と技術職員】

Y) たぶん一番難しい技術職員っていうのは、工学部の技術職員の方と、医学部、病院の技術職員の方です。どっちも、ものすごい勢いでテクノロジーが変わっている。

病院も昔はレントゲンくらいでしたが、今や PET だ MRI だの、もう色んなものが入ってきて。例えば、血液の中にラジオアイソトープなどを注射して測るなんて、そんなもん昔だったら、ちょっと驚きじゃないですか。

IY) 医療系従事職員も技術が新しくなるから、それらをどんどん吸収し、消化して行かないといけない。我々もそうですね。

Y) そうなんです。そういう意味で言うと、大学のなか限定で言えば、工学系の技術職員の方と病院系、医療系の技術職員の方ってのは、もう少し交流をされていいと思います。逆に言えば、ひょっとしたら、検査部門とか、MRI 的な所なんかは、例えば半年職場交換するとかね。

そういう事をやってもいいかもしれないですよ。資格が必要なんで中々難しいところもあるでしょうが。

そこでの交流ってのは、多分一人一人が思わぬ気付きってのがあるんじゃないかと思うんですよ。

工学系がどういうふうな人事ローテーションされているのか分かりませんが、同じメンバーで、ずーっと何十年も仕事をするっていう環境って、やっぱり人間変わることが、新しいステップに上がって行くので、自分にも慣れていないことをやるのは負担だけど、それによって成長する部分があるじゃないですか。

そういう環境を作っていないと、やり甲斐のある職場っていうふうになっていかない可能性があるので、病院長には、出来たら外の福岡市内の外の病院と人事交流されるとか、そういう事を言ってます。

こういった事を是非考えて頂けないでしょうか。

例えば学内だったら病院みたいな現業部門と交流できる場合があるんだったら交流するか。これは職場環境室を預かっている理事という立場で申し上げているんですけど..

それから後は、県の工業試験所とかですね、産総研の九州、ISIT（九州先端科学技術研究

所)などが近くにありますしね。九大発のいろんな会社があるし、民間の企業も含めて、公的機関あるいは民間機関、あるいは工学部を持つて他の大学、そういうところと出向みたいな、お互いに派遣出向でやれば人事的な経費は、補間的になりますから、そういう事も入れていって一つのキャリア形成のプログラムっていうのを長期的な視点で作って行くといいかと思います。

IX)大切なことですね。

Y) 是非、やられてみたら良いと思います。

もちろん、工学系の中でローテーションを掛けるってのも大事で、エレクトロニクス系の技術ていうのは、船舶でも鉱山でも要るし、何処でも要るわけですよ。

例えば、化学系においてもセンサーは必要だし、逆に色んな化学センサーを、色んな分野、機械もそれ使うかもしれないわけですから、そこでの交流ってのは当然あるべきですけど、ただ、その中だけでやると、ものすごく動ける人と動けない人とかいうのが出ちゃうじゃないですか、だから、みんながある程度動けるっていう場を作ろうと思うと、私は外まで拡げて、その場を設定する必要があるんじゃないかなーと。

IX)外の空気を入れた方が良いですね。

Y) 外の人も来ますからね。

IY)時代の流れから言って、何年後なんて言っていられないという状況ですよ。

Y) そうですね。

だから事務部でもですね、事務はもちろん文科省から動いてくる人がいて、国際部なんかは、外務省から大使館経験した人達も来るわけですよ。

で、施設部はもう日本国中の施設をまわってますから、彼らは凄い技術を持っていて、施設部の人達は九大来れたらものすごくハッピーなんです。日本で一番すごい事業をしているところですからね。

凄く優秀な人材がそこで3~4年鍛えて、また各大学にまわすという事を文科省がコントロールしてるんですよ。そういうのが技術系、技術職員の皆様には無いんですよ。

完全に切り離された組織になってしまっていて…。それが一つのポイントだなと思いますね。

IY)今年度から徐々に、一つのところに張り付いているというような状況を徐々に減らしていき、人事交流を活発化させていく計画はあります。

Y) まずは工学部の中でしょうけど、そのあとは学内で、理学系も何人か居られるんだと思いますし、あとは芸工ですね、芸工と、病院地区ですね。総理工もおられますし、この辺りをなんか上手く繋ぐ。

IX)一応、発足したのは4月なんですけれども、去年くらいから熊本大学の技術部の方との交流が始まっております。

あと、理学部とかですね。芸術工学部の技術、あちらの方は此处よりも先に支援という形で技術部が出来上がってまして、そこの方達との交流というのも始まってまして。まだ、農学部とか理学部いろいろありますが、これから連絡を取ってやって行こうという事になっております。

Y) 農学部なんかとやると演習林があって絶対面白いですよ。演習林に行かれたことはありますか？



IX)いやー無いですね。ただ演習林、北海道にもあるよなんて話は…。

Y) 九州大学の面積の半分は北海道足寄（アショロと読む）の演習林なんですよ。知ってました？。

***九大全面積の80%が演習林。その演習林の50%が北海道**

私はこれまでに2回行きました。1回目は夏に行ったんですけど、『夏来ても此処の凄さは分からんから、一番寒い時に来い』と言われて、この間2月に行ってきたんですよ。

たまたま、一番寒い時季で、晴れていて良かったんですけど…

やっぱり氷点下20度の世界って凄いですよ。

演習林の中は、演習林の車しか入らないから離合なんて有り得ない訳で、車一台分しかない林道なんですけど、時速40キロ、50キロでバァーと雪の上を走るんですよ。

雪の上をなんでこんなスピードで走るんですかと尋ねると、0℃とか-5℃位の時は滑るけど、これだと絶対滑りませんよと。こんな経験ってね、やっぱり行ってみないと分からない。そういう中で、鹿の害をどう防ぐとか、いろんな動物のモニタリングをしているから、色んなセンサーとか必要だし、ドローンなんかを飛ばして上空からやるとか、色んなことがあるんですよ。

是非、総合大学であるっていうことを上手く活用して、それは、高松さんに一回ね、大学全体で、まずはローテーションが出来るか、そういうことを視野に入れた議論をさせてくれと。あとは、事務部の施設は技術系だから、そこのローテーションで言うのか、そういったことがあっても良いのではないかという気がしますけどね。

使える技術は、色々とあると思いますけどね。

もう一つ、私は今施設担当をやっているのですが、その中で施設の人達と合言葉にしているのは、この 275 ヘクタール（伊都キャンパスの総面積）を使い倒そうと..

キャンパスを作った時に最初に作った建物は、あれなんですよ。

（会議室から道路を隔てて見えるガラス張りの建物を指さしながら）



あの建物、なにかわかりますか？

皆さん意外と知らないんですよ。最初僕らもパッと見たとき良いレストランが出来る！と思ったんですよ（笑

取材陣一同） ??? う〜ん、なんでしょう？.

Y) あれ、水の浄化施設なんです。

九州大学は、このキャンパスに降った雨を、1滴も使いませんと宣言したんです。

周りに 8 つ溜池を作ります。あそこにある 1 号調整池、また、今度南ゲートがこの秋にオープンしますが、そこに 7 号 8 号って、もの凄い、もう巨大ビルのような、深さも 20[m] ぐらいあるような溜池を 2 つ。作ってる途中ずっと見てましたけど、凄い事やるなと感心しました。

その溜池に水を貯めて、徐々に周りに出していくわけですが、同時に周りの水質環境チェックをずっとこの 15 年間やってきて、周りの田畑に影響がないようにしています。我々は使用後の水を全部捨てずに、椎木講堂の向かいにある給水センターで再処理して欲しい

40%から 50%はリサイクルしているんですよ.

この規模でやってるのは、全国の国立大学でもうちくらいですよ.

二つ目は、この地域にある植物を 1 種類も減らさないというプロジェクトで、真ん中に 100 ヘクタールの生態保全ゾーン作って、開発するところにしかない植物は全部そこに移し換えているんです.

植物相が変わらなければ昆虫相も、まあなんとか保てるのではないかという仮説で、少なくとも植物相は 1 種類も減らしてない、これが二つ目の実験なんですね.

で、三つ目が水素ですよ. いろいろありましたが、今は水素エネルギー研究が日本の中心になっているんですよ. ステーションもありますし、去年設置した都市ガス入れて燃料電池とマイクロガスタービンのハイブリッドで、定常運転で 200[kw]を発電します. 今は理学部が来て以来 8300[kw]契約なんです.

この間の冬、一番寒いときで、8500[kw]超えそうになったんですよ. で、この 200[kw]があったから助かったんですよ. 夏だったらそれに 120[kw]の太陽電池が加わるんだけど、冬だったのではほとんど 30[kw]くらいで期待できません. また、所々に立ってる風車のほとんどは発電量が期待できない状況です.

IX) 風車はそこそこ回っているようなのですが…?

Y) 当初、研究段階で導入したのですが、予想してたほど効果が出てないんですよ. その事を言ったら〇〇先生がいつも怒るんだけど… (笑

IX)でも結構、構内風吹いてますよね?

Y) それでもあまり回っていないので発電量が足りないんですよ..

小さいのは回ってるでしょ?

最初に回し始めるための起電力が要るのですが、これで相殺されるくらいの発電量なんですよ.. だからデモンストレーションでだけしかまわさないのではないかと…という説もあるくらいで (苦笑

一応そういうのも入れて、水素エネルギーを中心として、グリッド (散在した複数の資源をまとめ、リスク回避などを行うこと) に繋いで、小さな町が新しい再生可能エネルギーとその系統系統を繋ぐっていう、その実験場にもなっています. これはよそではなかなかできないことで、系統系からバックして燃料電池に溜めるといったことを想定したシステムを用意することが三番目の水素社会のモデルです.

四つ目が、僕らがやった学生証、職員証の IC カードです.

あれ、中に入ってるソフトは OS も含めて 1 行もメーカーのソフトは入ってなんいんですよ. 全部オリジナルなんです.

まあ、一応電子マネーも入れてて、学生さんがバスに乗る場合 250 円なんですけど、この

カードでの支払いの場合、その運賃から 100 円は大学が負担する仕組みになってるんですよ。こういった便利な事が簡単にできますし、生協さんとも協力し生協関連の支払いもすべて可能になってます。

年間で4億円ほどのマネーが動いてるんですよ。

全部オリジナルなんでハッカーも破ろうとしません。

ただ、破ったって、ここで食事ができるくらいだし、何十万円もするような物が買えるわけでもないんで破って見つかったときのリスクの大きいから、人は破らない。

これが最高のセキュリティである（笑

IX)そのカードの九大の技術を外部で使えたりするのでしょうか？

Y) 今、糸島市で『いとゴンカード』という名前で、市民のみなさん 10 万人のうち 2.5 万人の方々が持たれています。

*参考 URL http://www.soumu.go.jp/main_content/000300639.pdf

このカードには、もっと進んだ技術が入ってまして、老人会の方々は、救急車に乗せられたとき、例えば個人の持病などが入力されておりますので、問診の必要がほとんどありません。



また、波多江小学校などでは、小学生に例えば帽子などにペンダントのような IC タグを所持していることにより、入校や下校の情報が保護者に通達されるようなシステムになっています。また、これらをマイナンバーカードと融合させようという取り組みも今行っているところです。

以前、梶山先生が総長のときに、これからの情報化社会の基本は ID だと…。でその ID

のいろんなサービスに使える仕掛けをやりたいから、実験場として伊都キャンパスを使わせてくれと言ったら OK が出たのですが、その時、お金は一銭も出さんと言われましてね。全部研究費で取ってきて、10 億円近くをそれに使って 5 年半前から、研究費はいっさい入れないで業務費でやることに切り替えました。そこの切り分け（切り替え）ってのは物凄く大事なんですよね。

要するに、教員の研究の世界から、事務の業務の世界にすぐに切り替える。そうしないと、研究費で大学の業務の利便性を図っている事となり、研究費不正になりますからね。

その連続性をどう切り分けるってのはものすごく難しいところなんですよ。

この、研究の部分と業務の部分について、僕は、技術職員の方がどちらもタッチできるような仕組みがあってもいいような気がします。

IX)先ほどご説明しましたが、技術職員の仕事は共通業務（教育）と特定業務（研究）があって、今はほとんどの場合、技術職員は特定業務がメインとなっておりますが、今後は、だんだんと共通業務をメインとして特定の方はお金を取れるようにしようという、流れとなっております。

Y) いや、それは大事な事だと思います。一人ひとりの持っている技術力を生かせる場所を見つけていくということは..

ところで、今、実は新しい次のプロジェクトをたくらんでまして…。

学内を走っているマイクロバスを全部自動運転にしようと考えてます。

ある先生が駐車場が遠くなったからって怒るんですよ（笑

『上に、ちゃんと 500 台停めるところ作って、バス運転してるやん！』って言ってるんだけど、『いや、あれ遠すぎる！ 自分の前に降りたい！』…（笑

じゃあ、どうせやるなら面白い事やろうよ…。ってことで、時速 30[km/h]程度でいいからマイクロバスの自動運転をやると。最初 2 年くらいはキャンパスを実験場として企業に貸して業務のための予備実験としてやると。

でこのときに、公道だったら出来ない事が構内だったらできるんですよね。

ひとつは、外に（自動車の外側）センサーを置けるんですよ。車の中だけじゃなくて…。

車で閉じなくていい。車だけで（車の中のセンサーによる情報のみ）やる場合と、他の外からの情報を得て、危険回避をやればそれでもいいと。

普通に、バスも通ってればバイクも歩行者も自転車も通ってて、ただ、小さな子供達やご年配の方がいないこと…。

これはね、ちょっと事故のひとつ手前で実験するのがよいでしょうと…。

今、いろんな人が企業に声かけている際中です。

将来的にはオートバレーパーキングという、自分は車を降りてその後、自動車は無人で勝手に駐車場に戻る…。

こういう事をやる事によって学生も夢を持てるし、施設部の人たちもすごく協力的なんで

すよ.

こういうところに技術部の皆さんも関われる、あるいはある種のクラブ活動的な側面があってもいいと思うんですよ.

そうそう、おもしろいクラブで『狩部』ってあるのを知ってますか？
構内でイノシシを罠にかけて獲っているのですが、年間 80 頭程になります. ここに色々なテクノロジーが使えるはずなんですよ.

IX) そうですね色々なセンサーなどで…

Y) そうそう、どこを何時ごろ通ったかとか… まあそういういろんなことがこの大学の運営の中だけでもあるんですよ.

技術職員の皆さんが何をどこまでやるのかって事はともかく、色々と活躍できるような楽しい事はあると思いますよ.

そういうことはご相談いただければ、私が施設担当やっている間にご案内できると思います.
この 275 ヘクタールを徹底的に使って新しい未来社会ってのは、こうやって作るんだと…
実際にいろんな問題が出てくるんですよ. イノシシの問題だって未来社会の問題なんですよ.

IX) 今、あちこちで問題出てますよね.

Y) 思わぬ技術が大学内に転がってるんですよ.

いろんな事知ってる人がいて、別に研究で論文にはならないけど、でも解決しなければいけないと…

で、それでうまくいったら、糸島市、福岡市が採用するかもしれないわけですよ.

それがひとつの大学の社会貢献になる可能性もあると思います.

IX) 技術部ではまだ、社会貢献の方はまだまだこれから…ってとこなので (笑)

Y) いっきにお願いするのはなんですが、こういう拡がりもあるという事も視野にいれて技術部の方々も将来的なビジョンを考えていかれてはどうでしょうか.

IX) もっと考え方を広げていかないといけないなと思いました.

Y) あと安全管理だけとってみても、教育現場の安全管理ももちろんですけど、建物全体の安全管理も考える必要があります. 例えば、火事がおこったときに人はどう動くのか、防火シャッターはどう作動するのか.

やっぱり、命を守るという視点から見たときに、どう待避してどこの人をどう助けるかというような問題に対する具体的な議論をしてみるとか、火が出たときその火をそこにどうやって閉じ込めるとか、そういう具体的な問題はたくさんあるんですよ. 盗難の問題とかもあると思います.

いろんなセンサーはあるのですがそれが本当に有効に活用しているのかつてのは、非常にクエスチョンなんですよ。施設担当になって物を見始めると、ぜんぜん違って見えてくるんですよ。

で、人の動きって思ったとおりに動かない。

例えば、そこの立体駐車場前の二輪駐車場があるんですけど、あそこはほとんど停まっていないですし。

こっちが想像して作ってもその通りにならないんですよ。都市計画の人は夢を描いて作られるんですけど…なかなか人はその通り動かない。

だから、昼休み私は天気の良い日はいつも自分で構内を歩いて、すべての食堂の入り具合をみてるんですよ。

IX)そういうこともされてるのですね！

Y) やっぱ見とかなないとわかんないでしょ。

IX)そうですね…本当に

Y) 実際どうなのかっていうのをね。

例えば工事がどの位進んでいるのとかですね。…景色がどんどん変わっていくんですよ。

でそういうことも含めて、施設部ではドローンも買って、大雨降ったら定期コースを飛ばしてね。

これだけ広がったら隅から隅まで見えないですからね。

そういう事もやっています。おもしろいですよ。まさにエンジニアリングそのものです(笑)

IIY)やっぱり方向性を決めていかないとイケませんからね。そういった情報は必要でしょうね。

Y) そう。施設部とかとお話されるというのはおもしろいかもしれませんよ。

IIY)そうですね。何かヒントがあるかもしれませんよね。

Y) たとえば建物のメンテナンス。エネルギー消費を減らすってのが目下最大の目標であり、五年間で5%下げないとイケないんですよ。ちょっと厳しいですよこれは。

IX)そういえば、保全係へ研究室の蛍光灯が切れたから交換してくださいと伝えたところ、これからは全部LEDにするとの事でした。

Y) 全部LEDにして、そのうち有機ELにするとした方がいいかもしれませんね。

〇〇先生の作った有機ELが出来てきたら、九大は一番にモルモットになります…ってね(笑)

そういう、新しい社会の本当の実現場所としてやる場所の第一陣だというふうにキャンパスを考えると、研究はその先をやってるんですよ。

学生はその先をやるための基本を学び、過去の技術とそれを結びつける。
そのときに、自分の頭の中で一歩先の技術が見えているということは非常に大事なことですよ。

一般家庭に既に入っている技術が、大学ではもう入ってたよね.. というような事が、たとえそれがとても小さな事だとしても、それは非常に大事なことですよね。

IX) そういう意識があるのと無いのとでは全然違いますよね。

Y) 違いますよ。

皆さんの仕事の中で特に安全管理。特に情報管理とかだったらセキュリティ関係の事がおこったら責任問題になるんですよ。でも本当はおこる前に常に意識の中に入れておかないといけないし、で、それは口で言ってもわかんないですよ。一度ちょっと危ない経験しないとだめで実験ってそういう面がありますよね？

ヒヤリハットとか…。小さなちょっと危なかった！と思う事が、その人をその先安全にさせるわけで、そういう場に立ち会ってるということをうまく生かして欲しいです。

それから、教育はもちろんですけど研究や、できれば伊都キャンパスっていう新しい町づくりと言っていいと思うんですけど、それにもかかわっていただければいいかなと思っています。



IX)是非そういう方向で考えて行きたいと思います。

一同) 本日はお忙しいところ、本当にありがとうございました。

編集後記.

我々広報委員は三人で伺いましたが，取材を終えて三人が三人顔を合わせて『お話聴けてよかったね』でした．そしてお話にもあるように，これまでの限られた中での職務だけでなく，技術部の職員がそれぞれダイナミックな活動する事に，期待しておられるとの事でした．私たちも，そういった可能性を考える事で，将来的な展望や地域の方々と接する事の喜び，夢や期待を今回の取材を通して持つことが出来ました．

我々技術職員はこの機会を参考に，現在，中長期的でもあり，また微力ではありますが，地域との連携を模索した取り組みを始めようと計画中です．

今後とも，よりよき支援活動を行ってまいりますので，皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます．

技術部一同

編集：広報